



少しでも社会課題に備えるために

いよいよ 2017 年を迎えます。今年は無事にめぐみ在宅クリニックを開設して 10 周年を迎えることができました。今年 1 月 1 日から 12 月 18 日までに在宅看取りは 303 名を越えました。常勤医師 6 名、非常勤医師 11 名で 24 時間 365 日の診療を行う体制を整えることができるようになりました。しかし、めぐみ在宅クリニックで関わられる範囲のサービスで喜んでいて良いとは思いません。人生の最終段階に対応できる人材育成は、これから求められる喫緊の課題です。その思いから 2013 年にプロジェクトを立ち上げ、2014 年より研修会を開催し、2015 年には有志でエンドオブライフ・ケア協会を設立し、この 1 年半で 21 回のエンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座を開催し、受講生は 1200 人を越えました。そして、受講生がそれぞれの地域で教えるためのファシリテーターの役割を作り、近畿や山口、福岡などで広がりをはじめました。横須賀市では、それぞれの地域で学習会が企画されています。徐々に草の根の運動は広がりを見せています。

しかし、まだまだこの活動の認知度は低いと感じています。まだこのテーマを必要としている人に、十分に届いていないと案じています。このテーマを避けている人たちも多くいます。老いていくこと、子供が少なくなっていくこと、多くの人々が亡くなっていくことを他人事ではなく、自分のこととして考えるためには、どうしたら良いのでしょうか。

恐怖や心配なことを伝えるような周知方法ではなく、広く伝わるための方策を考えたいと思います。今年の 1 月に出した拙著は、おかげさまで 25 万部となりました。さらに、新刊を来年 1 月に出版予定です。地域包括ケアシステムと地域のクラブチームとのコラボを目的に、1 月には J1 のサッカーチームの企画担当者に会うことができました。

現在、テレビメディアの取材を受けており、3 月には、活動が地上波で放送される予定です。イメージカラーである人生の渚色を用いた人生の渚りボン運動や、意思決定支援の認知度を高めるための“恋する意思決定支援”の動画配信、救急医療を守りたいと考えている消防や救急医療の人たちと共同でイベントを開く、社会保障費の負担を減じたいと考えている人たちや、人権を守る活動をされている人たちともに、活動の輪を広げていきたいと願っています。

来年はどんな年になるのでしょうか？皆様にとっても良い年になりますように。

小澤竹俊

折々の言葉に引用されました

座右の銘のヒントとなった女子高校生の言葉が、10 月 28 日の朝日新聞の朝刊、折々のことばに掲載されました。

私がいのちの授業として高校に伺ったときの感想文にあった言葉です。もう 15 年近く前の話となります。今でも、新鮮な思いになります。力になれるから、関わる事ができるのは、誰でもできることです。本当の力とは、たとえ力になれなくても、逃げないで関わり続ける確かな力です。

「誰かの支えになろうとする人こそ、一番、支えを必要としています。」

診 療 実 績

	2006-2015年	2016年 1月~8月	2016年 9月	2016年 10月	2016年 11月	2016年 計	総計
訪問回数	41,344	6,415	767	735	795	8,712	50,056
自宅永眠	1,514	180	14	17	21	232	1,746
施設永眠	162	36	5	5	7	53	215
在宅 (自宅+施設)	1,676	216	19	22	28	285	1,961
病院永眠	403	53	15	2	4	74	477